

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	えびな安信
視察地	兵庫県加古川市		
調査事項	部活動地域移行に向けた取組について		
視察年月日	令和7年11月12日		
視察内容	<p>1. 加古川市の部活動地域展開するに至った経緯</p> <p>加古川市は兵庫県南部の播磨灘に面し、加古川の河口に広がる豊かな自然に囲まれた地域に発展した人口約25万人市である。これまで学校部活動は生徒が様々なスポーツ・文化活動に親しむ機会を担ってきた。一方で、少子化が進む中、学校や地域によって部活動の選択肢に差が生じているのが現状であり、生徒がやりたい活動を選択できない状況も起こりつつある。また、チーム種目においては学校単独でのチーム編成が難しい等の課題もあり、合同チームとしての活動を余儀なくされるケースもあります。さらに、教職員の休日であるはずの土日等に部活動の指導に関わらざるを得ない状況も大きな課題として挙げられており、令和9年8月（一部種目は令和8年8月）の中学3年生の部活動引退の時期をもって、平日休日ともに部活動を終了することとした。</p> <p>2. これまでの取組について</p> <p>学校部活動および新たな地域クラブ活動のあり方に関するアンケート調査を行う等、教員や小中学生、保護者等、各種団体よりヒアリングをしながら進めているが、地域クラブ活動を円滑に行うための調整・事務を行う団体を設置予定である。移行時期は中学3年生の部活動引退時期（令和9年8月、一部は令和8年8月）をもって、学校部活動は終了することとしている。令和8年8月より、ソフトボール、サッカー、ハンドボールについては先行実施予定である。地域クラブ活動の主体として、既存のスポーツ・文化団体、大学、民間企業、NPO、保護者やOBなど複数で連携されることが想定される。メリットとして、学校の枠を超えて希望する活動を選択できることや、これまで学校部活動にない種目（ダンス、料理、水上スポーツなど）への参加が可能になることが挙げられる。活動場所は学校施設（体育館・グラウンド）、公共スポーツ施設、地域公民館等。活動日は平日・休日対応（試行プランでは土日も選択可）参加費は活動維持のため、月会費または年会費を設定。また、事故等に備え、参加者やスタッフの保険加入を原則とする。</p> <p>3. 課題と考察</p> <p>加古川市の部活動地域展開は、少人数・多様化・教員負担という課題解決を目的としているが、地域クラブの偏在、費用負担、施設利用、指導者確保、移動手段確保、安全管理、ニーズ対応といった多面的な課題が存在する。確かにメリットもあるが、本市にも部活動を行いたい教員が一定数いることが予想されるため、加古川市のように教員や小中学生、保護者等、各種団体より丁寧なヒアリングを行い、旭川に合ったモデルを構築する必要があると感じた。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	えびな安信
視察地	東京都武蔵野市		
調査事項	武蔵野市立ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイスについて		
視察年月日	令和7年11月13日		
視察内容	<p>1. 事業実施までの経緯と機能について</p> <p>武蔵野市は東京都のほぼ中央に位置しており、面積は11km²とコンパクトな街である。平坦な地形にめぐまれた街は、昭和22年、特別区に隣接する郊外住宅都市としてスタートし、現在の人口は約15万人である。また、施策の計画・展開にあたって、早くから市民参加を掲げ、先駆的に取り組んできた。高い市民意識に基づいて策定された長期計画と調整計画は、豊かな財政力に支えられて着実に実行され、緑豊かな住宅都市と教育・福祉・健康・文化・スポーツ・情報などの生活型の産業が高度に集積して、調和した「生活核都市」として発展し、住んでみたい街としてそのイメージが定着している。武蔵野市は、地域のニーズ調査を行い、図書館機能やコミュニティスペースの必要性が浮き彫りになったため、地域住民の情報発信や交流の場を提供するために、武蔵野プレイスの設立を決定した。</p> <p>武蔵野プレイスは、大きく分けて4つの機能がある。図書館、生涯学習センター、市民活動センター、青少年センターなどといったこれまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報（知識や経験）を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会（まち）の活性化を深められるような活動支援型の公共施設をめざしている。また、人々の交流が自然に生み出される質の高い「場」を提供し続けることによって、生活、文化、芸術、自然、歴史、まちづくり、ボランティア活動、市民活動、生涯学習、福祉、教育といった横断的な活動や交流のネットワークの活性化を促すことを狙いとしている。多様な人々がそれぞれの活動を通して時間を共有する快適な空間（場）は、地域社会の魅力を高めることに寄与すると考えており、「場」＝「プレイス」ということばには、このような期待が込められている。</p> <p>2. 青少年活動支援について</p> <p>武蔵野プレイスは青少年が主体となり自ら学び、活動する場を提供している。特に「ティーンズスタジオ」では、楽器演奏やボルダリングなどができるスペースを設けており、青少年が自由に過ごせる環境が整っており、さまざまなイベントも行われ、活発な交流の場となっている。また、スタッフが相談に乗ることで、より安心して利用できる環境が提供されている。</p> <p>3. 課題と考察について</p> <p>武蔵野プレイスは幼児から青少年、高齢者までが集う画期的な施設である。しかしながら、高度な理念である「アクションの連鎖」を達成するためには、4つの機能を横断的に運営し、青少年の多様なニーズに対応できるなど、高度なスキルや経験を持つ人材が必要であると考えられる。本市に同じような多機能拠点を設ける場合、人材育成はもちろんのこと、組織間や部署間の連携をスムーズにしていかなければならないと感じた。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。

(様式)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	子育て文教常任委員会	委員名	えびな安信
視察地	神奈川県大和市		
調査事項	大和市文化創造拠点シリウスについて		
視察年月日	令和7年11月14日		
視察内容	<p>1. 事業実施までの経緯について</p> <p>大和市は、神奈川県ほぼ真ん中に位置する自治体で、横浜市や相模原市、東京都町田市などに隣接している。横浜まで相鉄線で約20分、新宿まで小田急線で約40分、渋谷まで東急田園都市線で約40分とアクセスも良く、市内には8つの駅が点在しており、コミュニティバスもすべての駅をつなげているため、買い物や市内移動がスムーズである。人口は、約24.5万人、面積は約27km²、県内では川崎市に次いで人口密度の高いまちである。</p> <p>平成28年11月、大和駅の東側に芸術文化ホール、図書館、生涯学習センター、屋内こども広場など複数の機能が融合した新たな文化の発信地である文化創造拠点シリウスが誕生した。もともこの場所（大和駅東側）は、市街地再開発事業の対象地であり、当初の計画では、分譲マンションを中心とした民間の再開発ビルが想定されていた。しかし、リーマンショックによる景気の冷え込みで、民間主導の計画が頓挫し、プロジェクトの再構築を余儀なくされていた。また、同時に大和市では旧生涯学習センターの老朽化が深刻な課題となっており、耐震性や設備面で限界を迎えていたため、新たな文化拠点の整備が求められていた。市は、再開発が止まってしまった駅前土地と、建て替えが必要な公共施設を一つにまとめ、多機能化した公共施設を核に据えることで、安定した人流を確保できると考え、シリウスの建設を決断した。運営はやまとみらいという共同事業体が指定管理を受けている。</p> <p>2. 機能について</p> <p>大和市文化創造拠点の4つの施設はそれぞれの個性の融合により更なるエネルギーを生み出し、未来につながる創造力を育み、芸術文化活動の道標となり、進化を遂げることを目的としている。図書館は300万人を超え来館者数で日本一と言われる。一般的な図書館と違い、1階にあるスターバックスのコーヒーを持ち込める等、館内の多くの場所で飲み物を飲みながら本を読むことができる。3階には天候を気にせず遊べる、ポーネルドがプロデュースした屋内こども広場があり、保育室には施設利用中に一時的に子どもを預けられる（有料）。1階の芸術文化ホールは、本格的なコンサートや演劇が行われるメインホールだけでなく、可動式の椅子を備えたサブホールもあり、多目的なイベントに対応している。また、生涯学習センターや、学生が勉強できるスペースが充実しており、2階のラウンジは、仕事や自習に利用する人で常に賑わっています。</p> <p>3. 課題と考察について</p> <p>シリウスは満足度の高い設備と充実したサービスを提供している一方で、毎年多額の指定管理料（運営費）を市が負担しており、経常収支比率が100%を超えている。大型施設は市民のニーズを調査しつつ、民間の力を借り、稼ぐことを意識しながら運営することが重要と感じた。</p>		

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。